

最新号は[Vol.19](#)です
バックナンバーは[Vol.19](#)から
ご覧になれます。

春号の表紙



萩原朔太郎(1886～1942) 詩人



■ [Bunkanomori Topics](#)

運営協議会は今?

〈報告〉文化の森で活躍する文化プレーヤー
表紙の人物紹介 萩原朔太郎

■ [Event Calendar](#)

大田文化の森運営協議会公募による事業

大田文化の森運営協議会主催事業

公募企画募集のお知らせ

■ [文化の森にZoom Up](#)

「文化のたねまき祭」を終えて

「実行委員」になりませんか 廊下ギャラリー～
企画・運営ボランティア募集～

■ [話題の人](#)

個性派女優 片桐はいり

■ [わが街おおたのグッドパートナー](#)

人道・博愛・公平をモットーに 大森赤十字
病院

■ [みなさんのおかげです](#)

おおたの学校 大田区立相生小学校校長

廣政尚文

ティーラウンジ すばる

情報誌「おおた文化の森」はここにありますが
編集後記

最終更新日 2005.07.20

05.07.20 やっと春号を掲載することができました。更新遅くなりまして申し
訳ありませんでした。

引き続き紙面刷新名前も新たになった情報誌の最新号「OBM」
Web版を制作中です。もうしばらくお待ちください。

04.07.13 大田文化の森運営協議会発行の情報誌「おおた文化の森」の
Webサイト版を立ち上げました。今まで以上に多くの方に読んで

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)も是非ご覧下さい。TEL 03-3772-0770

ご意見ご感想は[こちら](#)まで bunkanomori@nifty.com

運営協議会は今 誌上模擬実行委員会～「誰でも楽しめるプロジェクト」

運営協議会の直接企画は、実行委員会→役員会→文化会議を経て承認された場合、実施されます。そのため、最初の話し合いがされる実行委員会の取り組み方が企画立案の源になります。

「誰でも楽しめる」実行委員会は、現在、通年企画と単発企画を実施しています。

内容の異なる企画を複数運営していくには、情報の共有化が不可欠となります。月に一度の定例実行委員会で意見交換・情報交換の方法として、毎月の活動報告と決算承認を行います。

具体的には、今月はどんな事をしたのか、参加者状況は、参加者の変化は、予算の使い方は、次回に必要な事は、などなど報告がされ、他の委員からも、意見・質問・提言などが交わされます。耳の痛い意見や質問など、企画を実施するための努力を、この実行委員全員でしています。

初めての試みとして、平成一七年二月六日に実行委員全員の参加企画となった「誰でも楽しめるフリーマーケット」の開催と、ホールでは大道芸・ダンス・手話劇などの公演を実施しました。実行委員会は話し合いの場、実践の場だと思います。単に実行委員会が運営協議会の組織の中に位置するだけではなく、各々の活動の特性を活かすことにより、「文化の森」がより多くの区民活動を支援できるのではないかと思います。

(実行委員長 國廣 孝栄)

〈報告〉文化の森で活躍する文化プレーヤー ～世界に一つ、文化プレーヤー～



文化の森サロン交流会

「文化プレーヤー」、ちょっと珍妙なネーミングです。珍妙なはずですが、インターネットで検索しても「文化の森」関係以外から出てきません。世界で「文化の森」だけが使っている呼称です。

運営協議会は、「文化の森」の活動の源泉は「文化プレーヤー」の熱意と活躍にあると思っています。

「文化プレーヤー」は「文化の森」の活動に興味や関心のある方が、「誰でも」「何時でも」「何でも」登録さえすれば参加できます。

「文化プレーヤー」は行事を企画して実行する、自ら舞台に立って演ずる、準備や実務を推進する、などなど、どんな形でも、自分の出来る分野で、出来る範囲で、文化の森の仲間と共に実現するために登録していただいています。

では、文化の森の活動とは何か。自分の生活を豊かにする、豊かにできる全てのもの、を通じての自己実現が、ひいてはこの「大田文化の森」にいささかでも貢献する活動といえると思っています。

大田区民の活動の「場」であり、出会いの「場」であり、なによりも楽しい「場」であると、自らに言い聞かせています。

そして、くりかえしになりますが、これを実現するのは、「文化プレーヤー」のパワー以外にはありません。また「文化プレーヤー」は個人個人で頑張るよりも、みんなの意気込みや力を集めて実行する方が効果的だと思っています。登録方式は横のつながりのネットワーク作りの仕組みになります。

少しでも「文化プレーヤー」に関心がある方は、まず運営協議会にご一報ください(電話03-3772-0770)。DOOR IS ALWAYS OPEN!!

【注】運営協議会には、九つのプロジェクト実行委員会があります。

- 1.文化の森サロン交流会、2.誰でも楽しめる、3.子ども・若者、?異文化交流、4.芸術事業、5.まちづくり、6.収穫祭、7.たねまき祭、8.カラオケ盆踊り

「森」は英語で「FOREST」です。私は文化の森の活動の基本理念を左記のように覚えることにしています。

F-Free 自由で

O-Open 開放的で

R-Romantic 夢豊かで

E-Energetic 精力的で

■表紙の人物紹介
萩原朔太郎のプロフィール



萩原朔太郎(詩人)1886～1942年、群馬県生まれ。
1926(大15)年、荏原郡馬込村平張りに居住。父は前橋で医院を經營し
恵まれた環境にあった。1900(明33)年、15歳頃から短歌に励んだ。
家業を継ぐ意志はなく、1907～1910(明40～43)年、学校に入学して
は退学・・・をくりかえし、東京に出て放浪する。その後、前橋に戻り
1913(大2)年、金沢在住の室生犀星を知り生涯の友となる。
1917(大6)年、最初の詩集「月に吠える」刊行。動詞形の詩集名は、
当時としては画期的で、群馬の風土と詩の歴史を考える上でも、大切
な詩業となっている。書名は石川啄木の一首「わが泣くを少女等(ら)
きかば病犬(やまいぬ)の月に吠ゆるに似たりといふらむ」に由来する
と考える説がある。

馬込時代の朔太郎は、評論「詩の原理」執筆にうち込んだので、詩作
はない。大正から昭和にかけて文士村には、ダンスが流行、倦怠期の家庭に刺激がまし
いと萩原家でもパーティーが催された。しかし、妻のダンス相手との浮気によって家庭は
崩壊する。1929(昭4)年、傷心の朔太郎は二児をつれて前橋に戻った。
父の死後、1930(昭5)年、上京。母・妹・二児と世田谷に住み1938(昭13)年に再婚。
1940(昭15)年「帰郷者」によって透谷文学賞受賞。
伊香保温泉で「小泉八雲の家庭生活」執筆中に健康を害し1942(昭17)年5月、肺炎のため
自宅で死去。55歳。西条八十は「日本口語詩の真の完成者」と評した。前橋市敷島町
に萩原朔太郎記念館がある。

大田区にゆかりのある文士たちを表紙の「顔」としてから、1年になります。今年度も、馬込
界隈の「文士村」で活躍した文士たちを取り上げます。作品などの情報は「大田文化の
森」館内1～4階のエレベーターホールのパネルをご覧ください。

(文化プレーヤー 永島俊子)

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)も是非ご覧下さい。 TEL 03-3772-0770
ご意見ご感想は[こちら](mailto:bunkanomori@nifty.com)まで bunkanomori@nifty.com

大田文化の森運営協議会公募による事業

◆公募による事業とは

区民の文化活動を支援するために、実施したい企画、また、運営協議会に実施してもらいたい企画を募集。団体や個人が実施する企画に、使用施設・宣伝手段などの助成をします。

■女性のためのアロマリフレクソロジー

女性の三大不調(肩こり、便秘、むくみ)のすっきり解消を目指します。ご自宅でも行える3日完結リフレクソロジー。

開催日時:4月23日、5月28日、6月25日/14:00~16:00

定員:抽選で14名/参加費3000円(3回分)

申込締切:4月8日必着

■初心者のためのタイルクラフト講座

タイル貼り、目地入れなど基本的なことを指導し、フォトフレームや小物等を制作します。

開催日時:5月19日、6月16日、7月21日、8月18日/10:00~11:30

定員:抽選で15名

参加費:4000円(4回分) 申込締切:4月22日必着

■0歳から おやこでコンサート

幼児からお年寄りまで家族全員で楽しめる、ヴァイオリンとピアノの気軽なコンサートです。

開催日時:7月3日/14:00~16:00

会場:文化の森ホール/参加無料

公募企画募集のお知らせ

皆さんが考えた大田文化の森の集会棟を利用した企画(平成17年度後期)を募集します。採用された企画には、施設使

用料と付帯設備使用料の免除があります。

▽企画の実施期間 10月~平成18年3月

▽申込方法 所定の応募用紙で郵送または持参。5月20日必着。

大田文化の森運営協議会主催事業

◆主催事業とは

区民が自ら学び、演じ、交流し合って、新しい文化を創造し、区民参画による管理運営を実現するために、実行委員会(8プロジェクト)で主に企画し、実施する事業です。

■日本のマナー~学んで自慢しちゃおう!

日本に伝わる人や物を大切に作る心・礼の心・感謝の心やあいさつの基本、食事のマナーなどを、楽しく学びます。

開催日時:4月30日、5月21日、6月18日、7月23日、8月20日/14:00~16:00

定員:抽選で20名/小学高学年・中学生

参加費:2500円(500円×5回)

申込締切:4月8日必着

■『日本』を見つけてみよう~着・踊・唄・触・礼~

小学生の女の子たちに伝えたい日本に伝わる作法やたしなみを、あそびながら楽しく身につける講座です(各回おやつ付)。

開催日時:5月21日、6月18日、7月16日、8月20日、9月17日/10:00~12:00

定員:抽選で20名/小学生女子

参加費500円(5回)

申込締切:5月6日必着

■赤十字「幼児安全法」支援員養成講習会

子どもが家庭や地域で安全に健やかに育つように、また事故や病気から守るために必要な知識と技術を学びます。開催日時:5月14・15・22日/10:00~16:00

定員：抽選で25名／15歳以上／
参加費：3000円(3回分)

■大田文化の森ガーデニング 第1回講習会

NPO法人「大田花と緑の町づくり」の協力で講習会を行い、ガーデニングの楽しさや育てることの喜びを味わってもらう講座です。

開催日時：5月15日／10:00～13:00

定員：抽選で30名

参加費：1500円

申込締切：4月29日必着

■大田文化の森落語会 季節寄席〈夏〉

500円玉で落語を聞こう！夏の季節を盛り込んだ噺を三席。

開催日時：6月4日／15:00開演(開場14:30)

出演：春風亭朝之助、古今亭菊六

演目：未定

会場：多目的室

チケット 500円(自由席、当日700円)

文化の森にて5月4日から発売。未就学児不可

■教室の中の気になる子どもたち

軽度発達障害の保護者・教育関係者・または周囲の関わる大人のためのトレーニング・子どもとどのように関わるかを

学びます。

開催日時：6月4・18日／13:00～16:30

定員：抽選で10名

参加費：3000円(2回)

申込締切：5月19日必着

■赤十字「幼児安全法」一般講習会

支援員養成講習会の一部を行い、子どもに起こりやすい事故の予防と応急手当を中心に行う講習会です。

開催日時：6月8日、8月10日／13:30～16:30

定員：抽選で25名／15歳以上

参加費：1000円(各回)

■ブルガリア料理講習交流会

ブルガリアの人たちに代表的な料理を教わり、食しながら、楽しい異文化交流会を催します。

開催日時：6月12日／10:00～14:00

定員：抽選で30名

参加費：1000円

申込締切：5月27日必着

【申込方法】

往復はがきに、講座名、住所、氏名、年齢、電話番号、FAX番号を記入(注1枚のはがきに1講座)

申込宛先：〒143-0024 大田区中央2-10-1 大田文化の森運営協議会「○○○(講座名を記入)」係宛

問合せ先：電話：03-3772-0770 FAX:03-3772-0704

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)も是非ご覧下さい。 TEL 03-3772-0770

ご意見ご感想は[こちら](#)まで bunkanomori@nifty.com

2005 Ota bunkanomori. All rights reserved.

平成17年3月5日(土)実施
「文化のたねまき祭」を終えて ～「文化の収穫祭」にリレーしよう～



実行委員会の発表



議員さんの部屋

「たねまき祭」では、各実行委員会の報告と展望が発表され、全館企画で様々な交流と出会いがありました。

「たねまき祭」後、大田文化の森では、実行委員会を中心に文化プレーヤーによる事業活動が活発に行われます。各実行委員会では、企画から実施にいたる過程で運営の充実が期待されます。「行政と市民との連携・協働」を背景として市民の文化活動拠点であるここ文化の森では、市民自らが学び、演じ、楽しみ、また、主体的に運営管理を担っていくということに、他にあまり例がない新しい時代のニーズに応える試みとして、実践し、実現しつつあるという大きな評価を得ており、今なおその目標達成の途上にあります。

これから始まる2005年度では、企画内容・運営それぞれの質において更に良いものが実施され、その集大成とも言える「文化の収穫祭」(11月3日予定)で、その成果を市民の皆様にご披露できることが期待されます。



「たねまき祭」の交流会

(運営委員 河合良治)

「実行委員」になりませんか
文化プレーヤーの登録から企画実施まで



《廊下ギャラリー》
～展示案内～

廊下ギャラリーの企画・運営ボランティアさんを探しています！ 昨年秋から本格的に動きはじめた四階の廊下ギャラリーでは、月一回のペースで区民の皆さんによる個性豊かな展示会を開催しています。「町の変なオヂサン」の手製記念消印展、身近な素材で器用にアートしてしまう個展、共同作業所「喫茶色えんぴつ」で働くアーティストたちの二人展、池上自主パトロール防犯紙芝居の展示、油絵展と多彩な内容が続いています。四月は絹の絵装芸画三人展、五月は水墨南画・色紙習作展を予定しています。



喫茶「色えんぴつ」の2人展の様子

さて、このように好調な廊下ギャラリーですが、これからも気軽に自己表現していただける場として活用して行きたいと思います。

また、個々の作品展の取りまとめや、運営を担うギャラリー・ボランティアを募集しています。いろいろな方との出会いを楽しまれる方、型にはまらない手作りギャラリーに興味のある方、運営協議会に声をかけてください。

(運営委員 ヤマモトユウコ)

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)も是非ご覧下さい。 TEL 03-3772-0770
ご意見ご感想は[こちら](mailto:bunkanomori@nifty.com)まで bunkanomori@nifty.com

2005 Ota bunkanomori. All rights reserved.

話題の人

個性派女優 片桐はいりさんにインタビュー

私の生まれ育った町、大森。「ここはここで置いとける町」。



■身の丈に合った私の生活の場所

東京で仕事をして暮らしてゆくうえで私にとっていい場所です。都心でもなく郊外でもなく、そのバランスが私は一番好きです。

また、業界の人にあまり会わないのがいいですね。

蒲田や大井町は私鉄が乗り入れていたり、学校がいっぱいあるので学生や若者が居るけれど、大森には割りと居ない感じがあって、そこが私は好きです。

「大人の街」のイメージがあって住んでいます。古い町という印象があり、商店街がそのまま残っていて、世田谷とかから友達が「この古い感じが好きな人にはたまらないね～」と言って遊びにやって来ます。

地元に着たいいい商店街で、居心地のいい町です。

子どもの頃はよく多摩川の土手に行って遊んだりしていました。

また、二子玉川や多摩川園などにもよく遊びに行きましたし、考古学が大好きで、近所で家の建て替えや建築などの前に遺跡の発掘調査会がある時には必ず見に行きました。

馬込文士村については地元でもあり、ある程度の知識はあります。自宅の近所の山王会館の展

示室に行った事もありますが、各資料館までは見ていません。

町に出ると時々写真やパンフレットを持って歩いてる方々を見かけますが、私もいつかは訪ねてみたいと思っています。

作家の方では宇野千代さんや三島由紀夫さんの作品が大好きですし、もちろん他の作家の方々の作品も読んでいます。「赤毛のアン」は母が持っていた旧字体の本を、夢中で読んでいました。

■地元の大田区に今後期待する事は

世田谷区や北区などでは演劇が盛んですが、その文化を無理してここへ持ってくるのではなく、もっと地元として何か盛り上ったりする、勝手に出てくるものがあったら面白いなと思います。

自然発生的に何か面白い人たちやお店や場所とかが出来たら楽しいのになと思ったりして。この町にはもっと違った、大人が楽しめる特徴があれば恰好いいなと思います。

■何かやってみたいと思う夢は

訳の解らない夢を話すと、すごく大衆演劇が好きで、それは職業的な事ではなく、一人の一般人として。

希望としては劇場の支配人とか、そういうものになってみたいですね。

その劇場には大衆演劇やその他のものが毎月入れ替りやって来たりして。夢みたいな話ですけど、大田区に何かそういう劇場は出来ないですかね。

川崎には今も在りますが、昔は蒲田界隈にそういう劇場がたくさん在ったらしいので、位置的にそんな劇場が在ったら楽しい土地柄だと思います。

たぶん自分ではそんな具体的な事は出来ないと思いますが、この地域ならではの特徴のある町の劇場、町の映画館などが在ったら楽しいでしょうね。

■今後の予定と将来的な目標は

今後の仕事としては舞台と映画の仕事が決まっています。ただ、この世界もすごく狭いのですが、その中でも、ある程度インターナショナルに活動したいと思っています。

いろんな国の人たちと自由に交流出来るような活動をしてゆきたいと思います。

地元を愛し、その自然体の生き方に町の人からも好感を持たれ、町に溶け込んで暮らしている片桐さん。今後の一層の活躍を期待します。

■ プロフィール

大田区大森生まれ。

区立山王小学校を卒業。高校時代に映画が好きで、また演劇に憧れ、大学で演劇部に入り舞台に立つ。

芸名は学生時代のニックネームに由来する。

在学中に劇団「ブリキの自発団」に入団。在籍中の全二五作に主役で出演した。

平成五年に退団後は舞台、テレビ、映画、インターネット・ドラマなど、数多くの作品に出演し幅広く活躍中。

七月にはBunkamuraシアターコクーンで松尾スズキ作品「キレイ」の再演に出演予定。

問合せ＝東急文化村

03-3477-3244

(文化プレーヤー 菅原正信)

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)も是非ご覧下さい。 TEL 03-3772-0770
ご意見ご感想は[こちら](#)まで bunkanomori@nifty.com

2005 Ota bunkanomori. All rights reserved.

人道・博愛・公平をモットーに 大森赤十字病院
～信頼され心あたたまる病院をめざして50年～

大森赤十字病院は地域のニーズにこたえて、昭和二八年に設立されました。平成一五年は五〇周年という記念すべき年でもありました。

地域の中核病院としての気概が、ひしひしと感じられます。



■赤十字とは

1864年、戦時における捕虜の保護を目的とする国際協力組織がアンリー・デュナンの発案によってつくられスイス・ジュネーヴで発足しました。赤十字条約に加盟した国・一国に一社ずつ設けられた民間組織の機関です。

日本も赤十字条約加盟に伴って、今までにあった博愛社(西南戦争当時の戦傷・病休者の救護組織)を改称して日本赤十字社として明治20年に発足しました。

国内の医療組織の一つとして、大森病院は都の城南地区(大田区・品川区)をカバーしています。

そのほかの都内の赤十字医療機関には、医療センター(渋谷区)・武蔵野赤十字病院(武蔵野市)・葛飾赤十字産院(葛飾区)などがあります。

■大森病院の基本方針

- 1.安全で質の高い医療を提供する
- 2.救急医療の充実に努める
- 3.地域医療の充実に努める
- 4.災害救護に積極的に取り組む
- 5.経営の健全化を図る

■外来診療

(月)から(金)は8時30分～11時。診療科によっては午後も受け付けます。第1・3土曜日は診療日です。再診の人には、コンピューターによる診療受け付けで効率が図られ、予約制の導入で待ち時間も改善されています。

■地域との連携

平成五年、中央四丁目町会と災害相互応援協定が締結されました。医療機関と地域のこのような連携は誇らしいことです。

病院に「変事」があると、真っ先に駆けつけてくれる力強い味方がこの町会です。また自治会の防災訓練に参加して救護を担当、夜回り「火の用心!」、毎年五月の赤十字デーは病院内で救護・炊き出しの訓練・活動の展示・バザーなど地域や赤十字奉仕団と協力して実施します。

大田区内外の医師会との連携(大森・蒲田・品川・荏原・田園調布)も充実してきています。



インドネシア・スマトラ島沖地震救
援事業

■国内外での医師・看護師の活動

スマトラ沖地震・津波による災害、スーダン紛争、アルジェリア地震、イラク戦争、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震など紛争や災害のときには積極的に医師・看護師などを派遣しています。日常業務の合間をぬってなので、苦勞も多いがスタッフは情熱をもってがんばっています。

■普及活動

誰もが参加できる病院内での毎月の医療講座、家庭看護法、各種健康相談など。

■改築について



新潟県中越地震救護活動

建物の老朽化、手狭は誰の目にも明らかです。「大森日赤だより2月号」で新田院長は次のように述べています。

「必ずや近い将来にこの病院を改築し、近代的な病院にしようという夢を持って働いています」

■禁煙のすすめ

受動喫煙の害が声高にいわれるこの頃、四月一日から病院敷地内は禁煙となります。平成16年10月1日より禁煙外来(毎週月曜・午後)が開設されました。(文化プレイヤー 永島俊子)

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)も是非ご覧下さい。 TEL 03-3772-0770
ご意見ご感想は[こちら](mailto:bunkanomori@nifty.com)まで bunkanomori@nifty.com

2005 Ota bunkanomori. All rights reserved.